

英語教育強化事業について

子ども未来創造局 学校教育室

- ◆ 平成30年度2学期から、市立小・中学校の外国人英語指導助手(ALT)を、48名からさらに12名増やし60名に拡大します。これにより、小学校では、1・2年生から45分英語授業を実施するとともに、5年生以上では1学級4分割による少人数指導を試行実施し、英語教育のさらなる充実を図ります。
- ◆ 将来、臆することなく外国人とのコミュニケーションに臨めるよう、子どもの頃から英語に触れる環境を充実させていきます。

1 予算概要

①人件費等	202,842 千円	(報酬・報償費・共済費)
②委託料	22,636 千円	(生活支援委託等)
③その他	20,193 千円	(消耗品費・庁用器具費等)
計	245,671 千円	

2 英語指導助手(ALT)の増員

(1)英語指導助手(ALT)の配置状況

	現状	今回増員分	平成30年度2学期～
任期付 ALT	7名	—	7名
JET プログラムによる ALT	41名	+12名	53名
合計	48名	+12名	60名

(2)ALTの配置に必要な財源は、JETプログラムを活用することにより、ALT1名あたり年間472万円が普通交付税に加算されます。

※「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」は、自治体が総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の協力の下に実施する事業で、海外の青年を招致し、小・中学校などで、外国語教育等に携わることにより、地域レベルでの国際化を推進することを目的とした事業です。

3 英語教育の強化

- (1)ALTを、1校あたり小学校に2名～4名、中学校に3名配置します。
- (2)小学校においては、低学年(1・2年)において、新たに45分授業を実施し、ALT1名が授業に入ることにより、いっそう英語やネイティブスピーカーに慣れ親しむことができるようにします。
- (3)小学校5年生以上においては、4名のALTが授業に入り、6人～10人程度のグループに児童を分けて少人数指導を試行実施することにより、児童1人あたりの英語の発話量と英語に接する量を今まで以上に増やします。
- (4)中学生においては、引き続き、学年に専属のALTを配置します。
- (5)幼稚園・保育所に近隣の小学校から2週間に1回程度ALTを派遣し、英語活動を実施します。

【ALTの活用方法】

		平成29年度(2学期から)	平成30年度(2学期から)
小学校	1・2年生	▶ 週5回の15分モジュール (担任とALTで実施)	▶ 週4回の15分モジュール (担任とALTで実施) ▶ 週1回の45分授業 (担任とALTで実施)
	3・4年生	▶ 週4回の15分モジュール	変更なし
	5・6年生	▶ 週1回の45分授業に3名のALTが入り、ALT1名あたり8人～14人のグループに授業支援	▶ 週4回の15分モジュール ▶ 週1回の45分授業に4名のALTが入り、ALT1名あたり6人～10人のグループに授業支援
中学校		▶ 週5回の英語の授業のうち3回を授業支援(各授業にALT1名)	▶ 週1回の英語コミュニケーション科を重点化して授業支援(ALT2名) ▶ 週4回の英語科の授業のうち1～2回を授業支援(各授業にALT1名) ※これにより、生徒とALTのコミュニケーション量が2倍程度に増える
保育所 幼稚園		▶ 幼稚園・保育所にALTが2週間に1回 保育教育支援	変更なし

【教室での活動イメージ】

